

成田 歴史 玉手箱

● 39回 ●

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。



戦後、昭和21年8月14日に再開された
盆綱・薬王寺にて、新橋権雄氏所蔵

土屋の盆綱

藁で編んだ大綱を担ぎ



竜をかたどった盆綱の頭部

8月14日、40年ぶりに復活した土屋地区の盆綱。盆綱とは、藁で編んだ大綱を子どもたちが担いで新盆の家を中心に練り歩く盆行事の一つです。以前はのどかな田園風景の中を、提灯の明かりをゆらゆらと揺らしながら盆綱を引く様は、夏の風物詩として市内各地で見られたものでした。

江戸時代から行われていたといわれる土屋の盆綱は、大きな目・髪の毛・二本の角・赤い舌を付けた竜面を綱の先端に付けるのが大きな特徴です。復活に際し、成田山霊光館に寄贈した昭和38年の盆綱を参考に2日ばかりで作製。綱の長さは10m、太さは最大で20cm、竜面部分は直径70cmもあり、用意した藁の量は全部で千束を優に超えました。

かつてこの行事は8月13日～15日の3日間行われ、小学生から中学生の男子だけで行われたものでした。大人は綱作りの制作と盆綱の運行に支障がないように交通整理や道案内などをするだけです。13日は薬王寺で法楽を受け、根木名川まで運んだのちに家々を回り歩きます。ハチマキを締め、一番親方(中学3年生)は全体の指揮を、二番親方(中学2年生)が綱の頭部と尾を、ほかは背の高い順番に胴部を担ぎます。13・15日は区内すべての

新盆宅を練り歩く

「地元で古くからあった風習を知ってもらいたい、絶やしたくない」と昨年の

8月14日、40年

家を、14日は新盆宅を訪問。家から家へ向かう道中、親方の掛け声で「お山は晴天大菩薩、六根清浄」と、新盆宅では「六根清浄、六根清浄」と唱えながら庭を3周します。すべての行事が終わった15日の夜、頭部と尾だけを根木名川に流し、残った胴部はお寺や原っぱに土俵をつくり、子ども相撲を行いその役目を終えたのでした。

昨年からは14日の1日開催(雨天の場合は翌日)参加者は幼稚園児から中学生までの男女で、区内の道路を練り歩き、あらかじめ了承を得た新盆の家だけに立ち寄りとなりました。少子化、藁の確保、綱の作り方を知っている人の減少といった問題をかかえ、現在、土屋のほか新妻・赤荻・山口地区などで行われるだけとなった盆綱。「昨年はレクリエーションという形で導入し、区、商店会、子ども会に参加してもらいました。伝統ある地区の行事を末永く継承していきたい」と語る盆綱実行委員会の皆さん。そして、8月14日、園児から中学生30人によって新盆を迎えた5軒で盆綱が引き回されました。



盆綱を担いで練り歩く子どもたち。現在の成田山弘恵会大株駐車場付近(昭和38年8月14日、村島義則氏所蔵)

編集後記

ことしから御待夜祭の開催日が変わると聞いてびっくり。「祭りを行う人」の確保はどこも大変で、土日開催が増えてはいますが、宗吾様の命日に合わせた日程は絶対に変わらないと思っていたのでなおさらです。早速、宗吾霊堂に問

い合わせたところ、山車を引いたり準備をしたりする子どもや大人が参加しやすいように9月の第1土・日曜日にしたとのこと。ただし、宗吾様の命日に当たる9月3日は例年通り法要が行われるそうで、それを聞いて安心しました。